

# 「トマト隔離ベット栽培」の取り組み

令和3～6年度

～施設野菜の安定生産と省力化～ 【隔離床栽培モデル農業者（1戸）】（地域第1係・課題番号2）

## 1 課題の背景

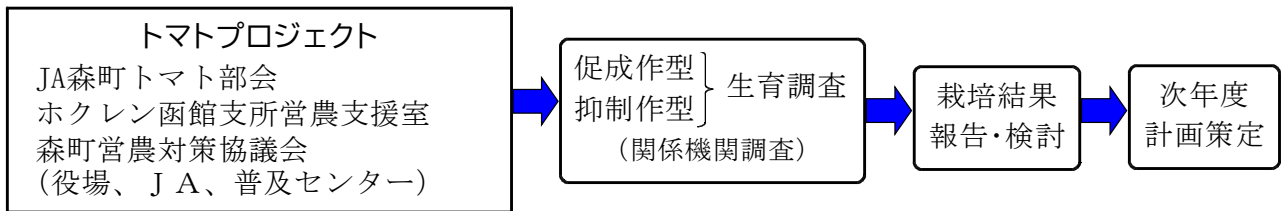
森町濁川地区では、長年温泉熱を利用し周年ハウスでのトマト栽培が行われている。そのため、土壌の養分蓄積や土壌病害及びセンチュウ類の発生が収量低迷の一因となっている。これら問題を解消するため、北斗市で先行して取り組まれている隔離ベット栽培の検討を令和3年の抑制作型から始めた。



写真 隔離ベット

## 2 活動内容

推進事項：トマト隔離ベット栽培における所得慣行対比（促成69%、抑制94%→100%）



R5：初期地温確保のため、ラッピング培地導入&温泉ダクト設置変更

## 3 活動成果

- ★促成作型所得は慣行比84%・・・初期の地温確保できず
- ★抑制作型は高温の影響で出荷量が少なく、収量調査未実施

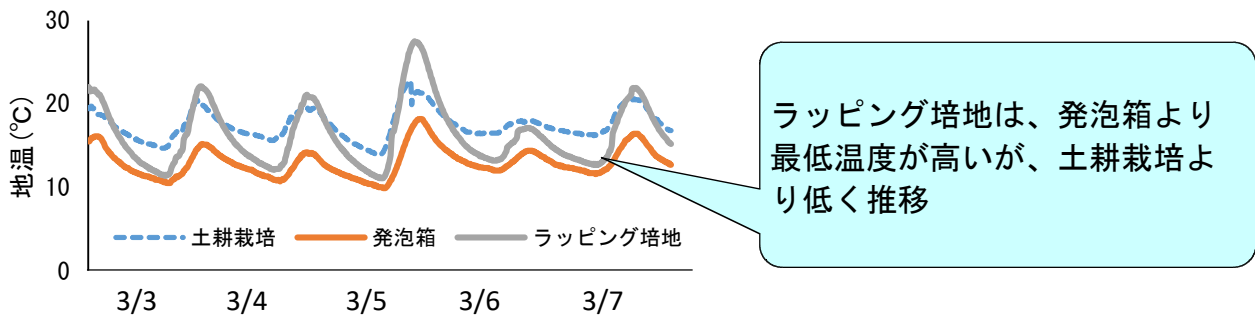


図1 地温の推移(3月上旬)

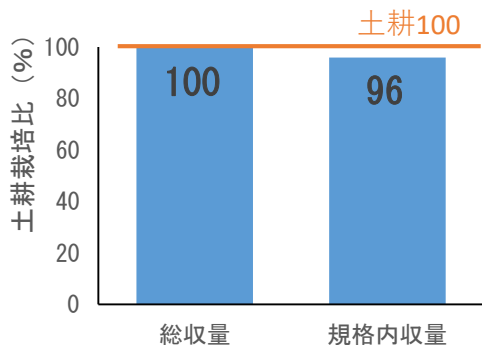


図2 促成作型の収量性(対土耕比)

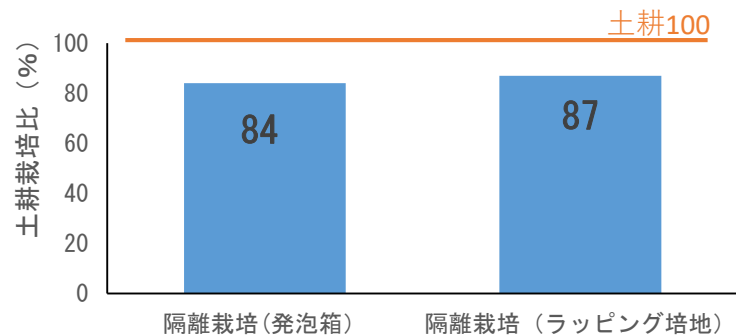


図3 促成作型の所得(対土耕比)

## 4 今後に向けて

森町の作型では普及が難しいため、本課題は終了とする。